

2024(令和6)年度財務報告書



総合研究大学院大学財務課

I. 2024(令和6)事業年度の本学の取組

- 1. 2024(令和6)事業年度のトピックス ……3
- 2. 教育・研究事業 ……4
- 3. その他の事業 ……12

II. 2024(令和6)年度決算からみる本学の学生支援の状況について

- 1. 本学の学生支援の状況(概要) ……16
 - ① 入学料及び授業料免除 ……18
 - ② SOKENDAI 特別研究員制度 ……19
 - ③ SOKENDAI 研究派遣プログラム ……20
- 2. 本学以外の機関による主な経済的支援の状況 ……21
- 3. 本学学生・修了生の主な各種受賞情報 ……22

III. 2024(令和6)年度財務諸表

- 1. 2024(令和6)年度決算の概要 ……28
- 2. 貸借対照表 ……29
 - 貸借対照表の主な増減要因 ……30
- 3. 損益計算書 ……31
 - 損益計算書の主な増減要因 ……32
- 4. キャッシュ・フロー計算書 ……33

IV. その他の財務データ

- 1. 運営費交付金及び自己収入の推移 ……35
- 2. 自己収入の推移 ……36
- 3. 外部資金等の推移 ……37
- 4. 科学研究費補助金の受入推移 ……38

I. 2024(令和6)事業年度の本学の取組

1. 2024(令和6)事業年度のトピックス

(1) 執行体制や事務体制の整備等

2024年度は、以下の取組を実施し、執行体制や事務体制の整備を図るとともに、昨年度発足した先端学術院20コースすべての基盤機関を訪問して学生・教員の生の声を聞くなどして、教育現場の実態や問題点、あるいは取り組むべき課題をよりの確に把握し、大学運営や教育・学生支援の施策に反映させることに務めた。

① 執行体制の強化:

23年度当初に計画した教学に重点を置いた運営体制の整備案に沿って、理事1名を交代。これに伴って、理事・副学長2名、執行役2名(1名は統数研とのクロスアポイントメント、1名は統合進化科学研究センターとの兼務)、学長補佐1名(KEKとの兼業)の執行体制とした。

② 監事常勤化への対応:

24年9月から常勤監事1名を配置。監事の常勤化に伴い、執行部・監事定例会合を毎月開催し、また随時の面談によって、大学の運営状況に関する情報共有・意見交換をこれまでより密に実施。

③ DX・事務改善推進室の設置:

事務改革基本方針に基づき、24年10月に総務課内にDX・事務改善推進室を設置(25年1月に室長1名、室員7名を兼務で発令)。デジタル技術の活用を含めた事務局の業務効率化、葉山本部と基盤機関事務担当部署との連携促進に向けて検討作業に着手。

④ 教育課程の実施状況の把握(基盤機関訪問):

教育課程再編後のコースの状況、学生の学修活動やキャンパス生活の実態を把握するため、24年7月～12月の期間に学長・理事による基盤機関訪問(教員90余名、学生60余名と対面による面談)を実施。課題や問題点を整理し、教育プログラムや学生支援対策の検討に着手。

20 コース	先端学術院が基盤とする研究機関
人類文化研究	国立民族学博物館 National Museum of Ethnology
国際日本研究	国際日本文化研究センター International Research Center for Japanese Studies
日本歴史研究	国立歴史民俗博物館 National Museum of Japanese History
日本文学研究	国文学研究資料館 National Institute of Japanese Literature
日本語言語科学	国立国語研究所 National Institute for Japanese Language and Linguistics
情報学	国立情報学研究所 National Institute of Informatics
統計科学	統計数理研究所 The Institute of Statistical Mathematics
素粒子原子核	素粒子原子核研究所 Institute of Particle and Nuclear Studies
加速器科学	加速器研究施設・共通基盤研究施設 Accelerator Laboratory / Applied Research Laboratory
天文科学	国立天文台 National Astronomical Observatory of Japan
核融合科学	核融合科学研究所 National Institute for Fusion Science
宇宙科学	宇宙科学研究所 Institute of Space and Astronautical Science
分子科学	分子科学研究所 Institute for Molecular Science
物質構造科学	物質構造科学研究所 Institute of Materials Structure Science
総合地球環境学	総合地球環境学研究所 Research Institute for Humanity and Nature
極域科学	国立極地研究所 National Institute of Polar Research
基礎生物学	基礎生物学研究所 National Institute for Basic Biology
生理科学	NIPS 生理学研究所 National Institute for Physiological Sciences
遺伝学	国立遺伝学研究所 National Institute of Genetics
統合進化科学	統合進化科学研究センター Research Center for Integrative Evolutionary Science

(2) 東京オフィスの設置及び自己収入の確保等

① 東京オフィスの設置等

基盤機関が分散していることを踏まえ、共創オフィスの設置に向け、令和7年度概算要求を行い、令和6年12月末に予算措置されるとともに、次世代を担う優れた博士人材を育成する環境整備のため、分子科学研究所の設備について令和7年度概算要求を行い、令和6年12月末に予算措置された。

② 自己収入の確保等

上述の運営費交付金収入の確保だけでなく、自己収入の確保を目指すため、本学設立以来初めてとなる一般担保付社債(東京電力債)1億円相当を令和7年1月に購入し、資金運用に努めるとともに、施設整備費補助金等により、附属図書館棟の外部改修工事を令和7年3月までに実施した。

2. 教育・研究事業

(1) 総合教育科目「フレッシュマンコース」の実施

本学では、地理的に分散し運営面でも高い自律性をもつ19の大学共同利用機関が各コースを担当しているという特殊性に配慮して、大学院課程としてはユニークな全学教育科目を設置している。

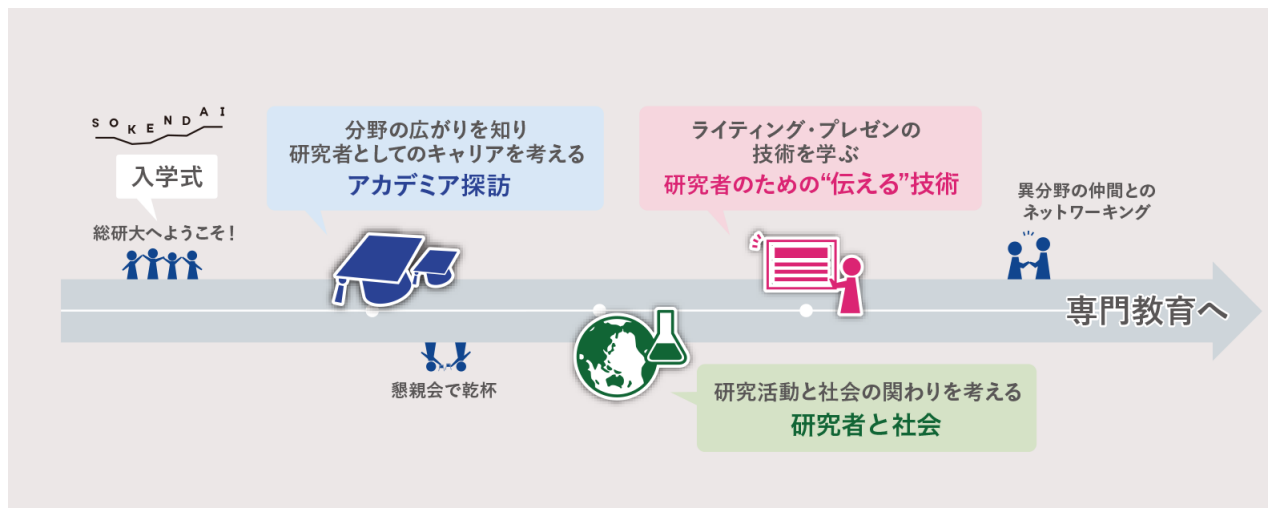
総合教育科目「フレッシュマンコース」は、入学定員120名程度の小規模な大学であることを活かして、

- ① 研究者を目指す全ての人が身につけるべき技術・考えるべき問題を学ぶ
- ② 専門分野が異なる他者との繋がりを築くこと

を主たる目的とし、全コースの新入生を対象に入学直後に実施される集中講義である。

本コースは、「アカデミア探訪」、「研究者と社会」、「研究者のための“伝える”技術」の3つのセクションから構成されている。

令和6年度は葉山キャンパスにおいて2泊3日の合宿形式の講義とオンデマンド講義を組み合わせた形で開催した。



【受講した学生の声】

文理をまたいで異分野の方と交流できるのは、総研大の魅力だと思いました！



同じコースの人とも仲を深められました！



【「フレッシュマンコース」実施状況】

	実施日程	使用言語	参加者数
前学期	令和6年4月9日～12日	日本語	81名
後学期	令和6年10月8日～11日	英語	25名

2. 教育・研究事業

(2)「SOKENDAI研究交流セミナー」の実施

学生が自身の研究について自・他コースの教員・学生と議論できる研究交流セミナーを複数のコースが共同で実施する取組を支援する教育事業として「SOKENDAI研究交流セミナー」を令和5年度より実施している。

令和6年度においては下表のとおり実施した。

【「SOKENDAI研究交流セミナー」実施状況】

名称	実施内容	日程・場所
KEK-天文連携セミナー	加速器科学コース、物質構造科学コース、素粒子原子核、天文科学コースの学生20名が集まり、異なる分野への理解と興味を深めること、研究の対象を広げることを目的として、互いの分野での研究成果を報告した。 また、石垣天文台とVERA石垣島観測局を現地で見学することにより、天文観測研究の最前線の知見を深めた。	令和7年3月10日～12日 〔石垣島天文台〕 〔VERA石垣島観測局〕
生命科学リトリート	生命科学研究という共通基盤を持ちながら専門分野が異なる複数のコース(遺伝学、基礎生物学、生理科学、統合進化科学および関連分野)の学生・教員が一堂に会し、学術的交流を深めることで生命科学をより大きな視点で捉え、これからの生命科学の発展に貢献できる人材の教育を目的に会議を英語で行うことで、国際通用性の向上を図り、学生委員の企画と進行のもと、学生の研究発表(口頭、ポスター)と意見交換会が行われた。 山梨県において2日間にわたり開催し、学生、教員合わせて約90名が参加した。	令和7年1月16日～17日 (山梨県富士河口湖)

2. 教育・研究事業

(3) 国際教育連携の構築・実施

国際教育連携に関して、本学ではアジア諸国を含めた国際的な若手研究者の人材育成に寄与するため、「アジア冬の学校」を開催している。令和6年度においては、以下のとおり3件開催した。

【国際教育連携の構築・実施状況】

名称(実施コース)	実施内容	日程 (開催場所)
国立天文台 アジア冬の学校 (天文科学コース)	天文学の各分野における最先端の研究をリードする教員により、銀河進化と銀河団、惑星形成、太陽、銀河考古学など幅広いテーマをカバーする集中講義を実施した。	令和7年2月6日～7日 (オンライン開催)
分子科学研究所 アジア冬の学校 (分子科学コース)	テーマを「Challenges for New Frontiers in Molecular Science : From Basics to Advanced Researches」として、分子科学研究所において分子研教員による講義及び参加者によるポスター発表を行った。インターンシップ生(IIPA:分子研アジア国際インターンシッププログラム)4名、マレーシアのマラヤ大学から2名、総研大生13名、広島大学1名、講演者2名、若手研究者を含めた教職員5名の計27名で実施した。	令和7年1月20日 (分子科学研究所)
核融合科学研究所 SOKENDAI Asian School (核融合科学コース)	プラズマおよび核融合のアセアンスクールと共催。 講演および学生勧誘を実施。	令和7年1月12日～17日 (ラチャモンコン工科大学) (タイ)

2. 教育・研究事業

(4) 国際共同学位プログラムの構築・実施

本学では、海外の研究環境を活用して学生の研究力を培い、学位論文研究の幅を広げるとともに、若手人材の国際流動性を高めることを目的として、海外の高等教育機関と協定を締結し、一人の学生に対して双方の機関の教員が共同で学位論文指導を行う「国際共同学位プログラム」を推進している。

令和6年度は、下記の国際共同学位プログラムを実施した。

ダブルディグリー(受入:2名)、デュアルディグリー(コチュテル)(派遣:2名、受入:1名)、国際共同論文指導(受入:1名)。

【本学と国際共同学位プログラムに関する協定を締結している海外の高等教育機関】

プログラム類型	国名	機関名	令和6年度実績	
			派遣	受入
ダブルディグリー	タイ	ヴィダヤシリメディー科学技術大学院大学	-	1
	ジョージア	ジョージア工科大学	-	1
デュアルディグリー (コチュテル)	フランス	エコール・サントラル・ナント	-	-
	フランス	パリ・サクレ大学	-	1
	フランス	ソルボンヌ大学	-	-
	イタリア	ボローニャ大学	2	-
国際共同論文指導	中国	西南交通大学	-	1
実績合計			2	4

2. 教育・研究事業

(5) 統合進化科学研究センターによる研究事業

統合進化科学研究センターは、令和4年4月に、国内外に開かれた共同研究を通じて、生物進化学の研究および科学活動を広い視野から俯瞰的に捉え、もって人間社会の諸問題の解決を目指す新たな研究分野である「統合進化科学」を開拓することを目的として設立された。

本センターは、「進化」を軸とした国内唯一の研究拠点として、国内外の研究機関と連携し、「統合進化科学」という新たな学術領域の創出を目指している。

各教員は、「統合人間科学」「多様性進化学」「複雑適応系進化学」の3つの研究部門に所属し、研究者同士が密接に連携しながら研究を推進している。



統合進化科学研究センター棟(葉山キャンパス)

3つの研究部門について

統合人間科学研究部門

これまでの進化の産物としてのヒトおよび現代社会における人間活動に関して、多様な研究を精力的に展開してきた。それらの研究成果から、ヒトに関する生物学的知見や研究アプローチを緊密につなぎ合わせることによって、今後、従来の人間観を覆す新たな理解をもたらすことができる研究を遂行する。また、人文・社会科学、疫学、農学、水産学などの領域に進化の概念を導入することによって人新世と呼ばれる現在において、社会的に必要とされる新規の学問領域を生み出す。本研究部門では、進化を軸としてヒトとその営みを包括的に研究し、応用学的貢献を含めた画期的成果を産出する。

多様性進化学研究部門

生物の多様な適応様式を理解することは、我々の知的好奇心を満たすのみならず、地球環境問題の解決や生物多様性保全の活動においても必要不可欠な作業である。これまでに展開してきた研究によって、従来実験動物などの限られた種に偏りがちであった研究対象を大きく広げ、多様性に関する未知の現象を数多く解明し、世に発表してきた。本研究部門ではこの方向性を発展させ、多様な環境に生息する生物の適応様式の解明、多様性を創出する生物学的基盤の理解を研究目標として掲げ、多様性理解における国内外の主要拠点を構築する。

複雑適応系進化学研究部門

人の経済・社会活動が地球規模の変容をもたらす現代、その複雑な課題の解決に向けた基盤研究が切に求められている。このような課題を考察するうえで、非生物・生物のあらゆる階層・環境・人間社会が一つの集合体を成していると捉える包括的な視点が必要である。生態系はもちろんのこと、人間活動の多大な影響力の背後にある科学技術そのものの発展も、生物・非生物(人工物)を含む、様々な要素間の相互作用に基づいている。本プロジェクトでは、複雑適応系(complex adaptive system; CAS)の概念にならい、各要素単体ではなく、多様な要素・階層間の相互関係・非線形のダイナミクスに着目し、共生・共働を促す新しい知識基盤の提供を目指す。

2. 教育・研究事業

(5) 統合進化科学研究センターによる研究事業

令和6年度は、萌芽的共同研究および複雑適応系進化学研究を公募により、以下のとおり実施した。

【統合人間科学研究部門・多様性進化学研究部門の採択課題】

採 択 課 題	部 門	研究代表者
脊椎動物ボディプランの解剖学的理解と拘束要因	多様	入江 直樹
集団遺伝学の理論に基づく進化メカニズムの解明	統合・多様	印南 秀樹
表現型進化における形質の獲得と維持に関する論理的考察(2)	統合・多様	沓掛 展之
絶え間ない多様化や、不均一ネットワーク上の進化を予測する進化理論の拡張	統合・多様	佐々木 顕
現代人と古代人のゲノム中のデニソワ人DNA:デニソワ人との交雑はどこで起きたか?	統合・多様	颯田 葉子
バイオリギング手法を用いた大型海洋動物の生態、生理、進化に関する研究	多様	渡辺 佑基
植物遺伝資源の収集・保存の歴史	多様	飯田 香穂里
多様性進化学プロジェクト	多様	大田 竜也
ヒトのニッチ構築に関する理論的研究	統合	大槻 久
アゲハチョウの高次脳領域における視覚経路の同定	多様	木下 充代
染色体博物学および染色体ラボ構想の発展に向けて	統合・多様	田辺 秀之
生物の環境適応と種分化、およびヒトの進化との関連	統合・多様	寺井 洋平
動物とヒトの共進化過程としてのドメスティケーションの研究	統合・多様	本郷 一美
機械学習技術によるヒトの知識限界の拡張可能性について	統合・多様	大西 勇喜謙
ヒトの社会の変遷をDNAから探る～縄文時代と弥生時代を例に～	統合	五條堀 淳
多面的な手法による人類のライフヒストリーの復元	統合・多様	蔦谷 匠
昆虫脳の性差を規定する新規メカニズムの探索	多様	渡邊 崇之

【複雑適応系進化学研究部門の採択課題】

採 択 課 題	研究代表者
学習過程と進化過程の同等性に関する調査研究	入江 直樹
研究者コミュニティにおけるブロックチェーン技術導入の可能性考察	印南 秀樹
人為環境における野生動物と人間の共存関係	沓掛 展之
渋滞の数理と進化の数理の交錯	佐々木 顕
三浦半島沖における外洋性大型魚類の来遊状況と行動生態	渡辺 佑基
三浦半島における漁業者と放射線の歴史的研究	飯田 香穂里
正負の互惠性を区別した複数評判モデルからの探る人間社会のダイナミクス	大槻 久
キャバツウニを巡る養殖技術の開発の歴史と社会経済循環のしくみ	田辺 秀之
池子遺跡水田遺構出土のイネ古代DNAから三浦半島での江戸時代の稲作を復元する	寺井 洋平
三浦半島における先史時代人類の生業活動と古環境	本郷 一美
「科学的に確証されていない」主張の類型学	大西 勇喜謙
ボルネオ島の熱帯雨林における人獣共通感染症の包括的モニタリング	蔦谷 匠
“イレギュラーな社会的状況”に置かれた昆虫の社会活動の定量的解析	渡邊 崇之

2. 教育・研究事業

(6)社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究事業

令和6年度は、高校と連携した教育支援活動や、一般向けのセミナー、並びに、自治体と連携した社会連携活動等を実施した。

【令和6年度社会連携事業の実施】

タイトル	実施内容など	実施日
岡崎キャンパスにおける市民向け総研大アウトリーチ活動	愛知県岡崎市の自然科学研究機構岡崎コンファレンスセンターで開催された「第40回せいりけん市民講座」において、社会連携事業の一環として市民向け総研大アウトリーチ活動を実施した。第一部では、生理学研究所助教・知見聡美氏が「体は電気で動いている?! ~運動をコントロールする脳のしくみ~」をテーマに講演を行った。第二部では、県立岡崎高校・岡崎北高校の高校生による科学ワークショップや、総研大生によるプリズムめがね体験や超新星爆発の紹介などのブース展示が行われた。	令和6年7月20日(土)
高専生による小型加速器製作を主体とした社会連携事業 ('Maker Faire Tokyo2024' 出展)	東京ビッグサイトで「Maker Faire Tokyo 2024」が開催され、小山工業高等専門学校 <small>の</small> 加速器製作チーム「アテナ」と長野工業高等専門学校の加速器研究同好会「かそ☆けん」が出展。本学では、社会連携事業「高専生による小型加速器製作を主体とした社会連携事業」の一環として、高エネルギー加速器科学研究科加速器科学専攻の教員・学生を中心に、同チームの取り組みを支援した。	令和6年9月21日(土) ~22日(日)
宇宙線ミュオンで古墳を透視	東海村教育委員会、J-PARCセンター、茨城大学及び東京都立大学による「宇宙線ミュオンで古墳を透視プロジェクト」の一環として、本学もSOKENDAI社会連携事業として当プロジェクトを支援している。 地元及び茨城県外の子どもたちで構成される「ミュオンにコーフクラブ」は、本学教員をはじめとする加速器研究の専門家チームの指導を受けながらミュオン測定器の製作等に取り組んでおり、令和6年10月13日には、昨年製作したミュオン測定器を東海村舟塚古墳群第2号古墳に設置し、稼働させることに成功した。	令和6年10月13日(日)
未知への挑戦 若手が語る最先端研究2024	総研大で研究の最前線にいる大学院生が長野県飯田高校の生徒を対象に授業(講演)を行い、研究の面白さや社会における研究活動の意義を伝えるとともに、理数科生徒との交流会を行い、課題研究や進路選択に向けてのアドバイス等も行った。	令和6年11月5日(火) ~6日(水)

2. 教育・研究事業

(7) JSPSサマー・プログラム

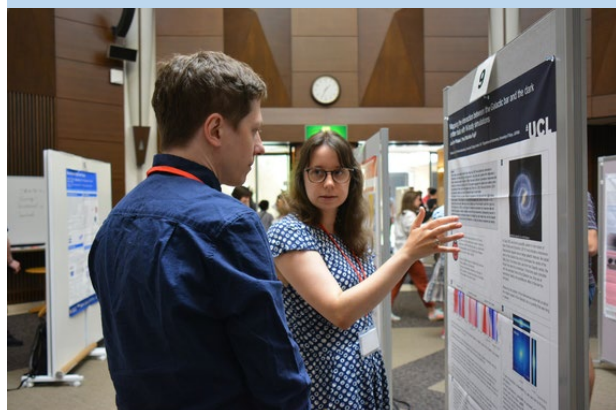
本プログラムは、本学と独立行政法人日本学術振興会との共催により実施するもので、欧米の博士号取得前後の若手研究者を夏期の2か月間、我が国に招致し、日本の若手研究者間の研究交流を促進することにより、各国との学術交流の推進および日本の大学教育の国際化を図ることを目的としている。

日本語および日本文化等に関するオリエンテーションを実施後、日本の国公立大学・国立研究機関等の受入研究者の下で研究の機会を提供する。令和6年度はアメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、カナダおよびスウェーデンの6か国から、計95名の若手研究者をフェローとして受け入れた。

国名	アメリカ	イギリス	フランス	ドイツ	カナダ	スウェーデン	計
人数	15	15	17	19	17	12	95

令和6年6月18日～6月21日 オリエンテーション(湘南国際村)

- ・ 特別講義
- ・ 日本語授業
- ・ ポスタープレゼンテーション
- ・ 日本文化体験
- ・ 和楽器演奏(箏・三味線・尺八など)



令和6年6月22日～8月25日 研究活動 (国公立大学・研究機関等)



令和6年8月26日 研究報告会及び閉講式(東京都内)



3. その他の事業

(1) 葉山キャンパスの施設整備

① 附属図書館棟長寿命化工事の実施

附属図書館棟は平成14年に建設されて以来、築22年が経過しており、外壁および屋根部に経年劣化が見られたため、インフラ長寿命化計画および修繕5ヶ年計画に基づき、外壁および屋根部の長寿命化工事を実施した。主な財源は国立大学法人施設整備費補助金等である。

(単位:千円)

No.	工事名	金額
1	総合研究大学院大学(葉山)図書館長寿命化改修(外部改修)工事	41,319
合計		41,319



附属図書館棟(2025年3月更新)

② 太陽光発電設備による自然エネルギーの活用

葉山キャンパス附属図書館棟の長寿命化改修工事を実施し、屋根防水・外壁改修等の外部改修工事と併せて、勾配屋根に設置する太陽光発電設備の更新(設備容量20kw)を行った。

また、共通棟別館に太陽光発電設備の設置(設備容量10kw)を行った。

主な財源は独立行政法人大学改革支援・学位授与機構施設費および目的積立金である。

太陽光による安定した自家発電量の確保により購入電力量の削減を行うとともに、CO2排出量の削減に繋げ、脱炭素化・再生エネルギーの活用を推進していく。

(単位:千円)

No.	工事名	金額
1	総合研究大学院大学(葉山)共通棟別館太陽光発電設備設置工事	30,547
2	図書館太陽光発電設備更新工事	44,873
合計		75,420



共通棟別館 設備容量10kw(2025年3月更新)

3. その他の事業

(2) 環境配慮への取組

本学は、社会および環境への配慮の方針として「総合研究大学院大学葉山キャンパスにおける環境方針」を策定・公表し、地球温暖化対策に取り組んでいる。具体的な環境取組体制や環境配慮活動については、令和3年度より「環境報告書」を作成し、公表している。

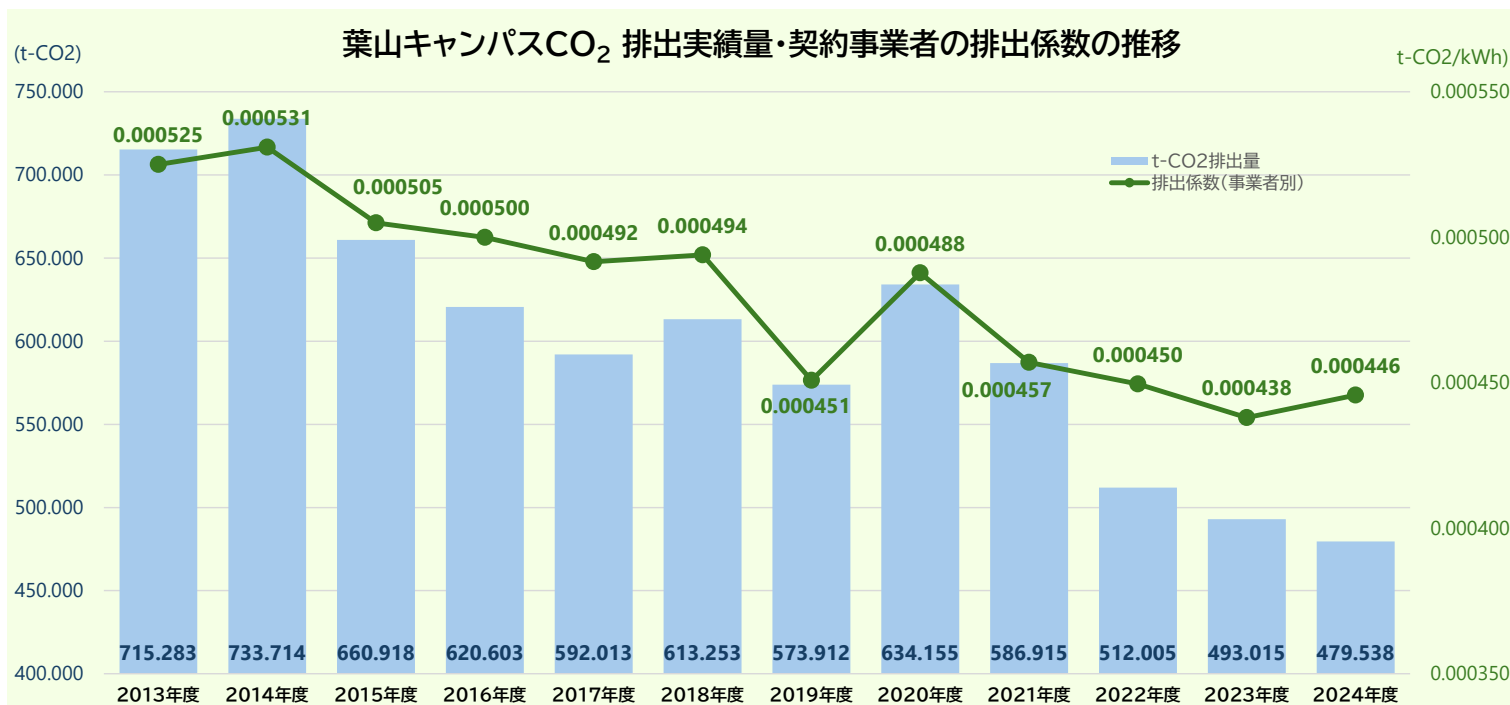
(<https://www.soken.ac.jp/outline/disclosure/agreement/cat1728/>)

葉山キャンパスCO₂排出量の状況

令和6年度における葉山キャンパスのCO₂排出量は、前年度比で**2.7%減少**となった。

令和2年度に実施した共通棟の照明器具LED化改修工事に続き、令和3年度には先導科学研究科棟内の居室および共有スペースを対象とした改修工事、さらに令和5年度には図書館・共通棟別館の照明器具LED化改修工事を実施してきた。これらの継続的な施設設備の省エネルギー対策による効果に加え、学内における継続的な節電の取組等により、CO₂排出量の削減につながった。

令和7年度も引き続き、本学の地球温暖化実施基本計画に基づきキャンパス内の省エネ・CO₂削減を目的とする各種取り組みを推進していく。



環境報告書2024

(補足)

CO₂排出係数: 1kWhの電気を供給するためにどのくらいのCO₂を排出しているかを示す指標

CO₂排出係数(t-CO₂/kWh) = CO₂排出量 ÷ 販売電力量

2. その他の事業

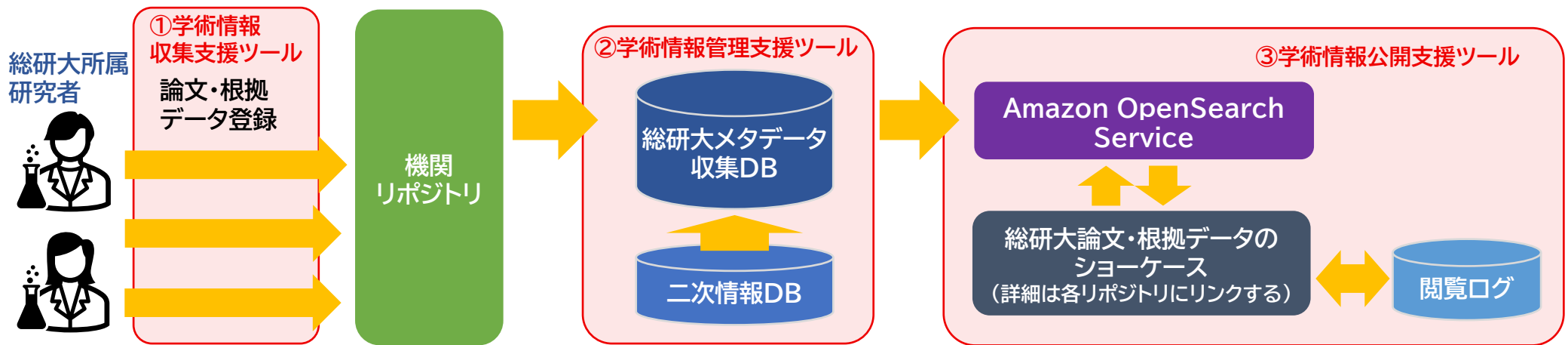
(3) オープンアクセス加速化事業

本学は、4つの大学共同利用機関法人及び国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構に属する研究機関(以下「基盤機関」という)を教育の場とする大学院大学であるという特性から、本学の教員は、大学教員としての身分に加え、各基盤機関の研究者としての身分を併せて有している。このため、本学の教員が作成した学術論文及びその根拠となる研究データは、基盤機関の成果として位置付けられ、各基盤機関の方針に基づき、それぞれの機関リポジトリにおいて公開されている。

また、本学の学生の博士論文については、本学の学術情報リポジトリに登録されている一方で、当該論文に係る研究データは、実際の教育・研究の場である各基盤機関のリポジトリに登録されている。

よって本学全体の研究データ管理体制は多様かつ複雑なものとなっており、本学の特色である多彩な学問分野間のつながりが十分に可視化できておらず、利用者の新たな知見の創出を促すようなサービス提供に至っていないのが現状である。

こうした課題を踏まえ、令和7年度からのオープンアクセスへの対応を目的として、令和6年度に「令和5年度人工知能等社会実装研究拠点事業補助金(オープンアクセス加速化事業)」を財源とし、以下のとおり、学術情報の収集、管理及び公開に対応するシステムの開発を進めた。



①学術情報収集支援ツール	総研大の研究者・総研大生の学術論文および研究データを収集、パッケージ化し、メタデータを自動的に補完しながら一括登録を可能とする情報支援ツールの開発
②学術情報管理支援ツール	登録したい学術論文および根拠データのメタデータを二次情報データベースから収集し、管理するための支援ツールの開発
③学術情報公開支援ツール	総研大の学術成果である論文および根拠データのメタデータを収集し、ショーケースとして提示するための公開支援ツールの開発

II. 2024(令和6)年度決算からみる 本学の学生支援の状況について

1. 本学の学生支援の状況(概要)

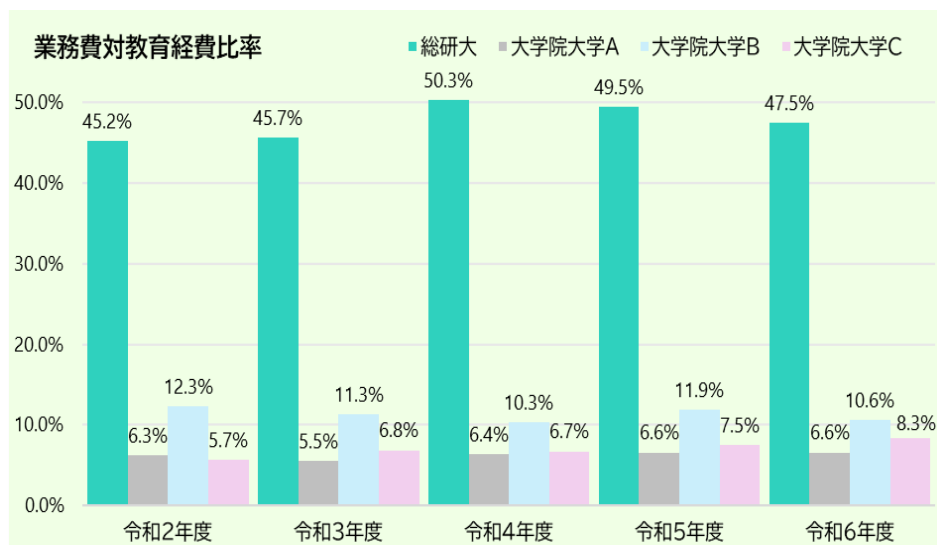
本学は、大学の財源を教育に積極的に投入していることを示す「業務費対教育経費比率」や、個々の学生が受けられる教育資源の充実度を示す「学生一人当たり教育経費」などの教育経費に関する財務指標において、全国の国立大学法人平均を大きく上回る水準を常に維持している。

これは、世界トップクラスの研究環境を有する基盤機関を教育の場とする特性を活かし、限られた財源を教育・学生支援に重点的かつ戦略的に配分している結果であり、学生一人当たり直接還元される教育経費の比重が高くなっていることによるものである。

具体的には、後述する「授業料免除制度」、「SOKENDAI特別研究員制度」、「SOKENDAI研究派遣プログラム」など優秀な学生の研究活動を経済的に手厚く支援する事業を重点的に実施しており、これらの取組が当該指標を高水準に維持する主な要因となっている。

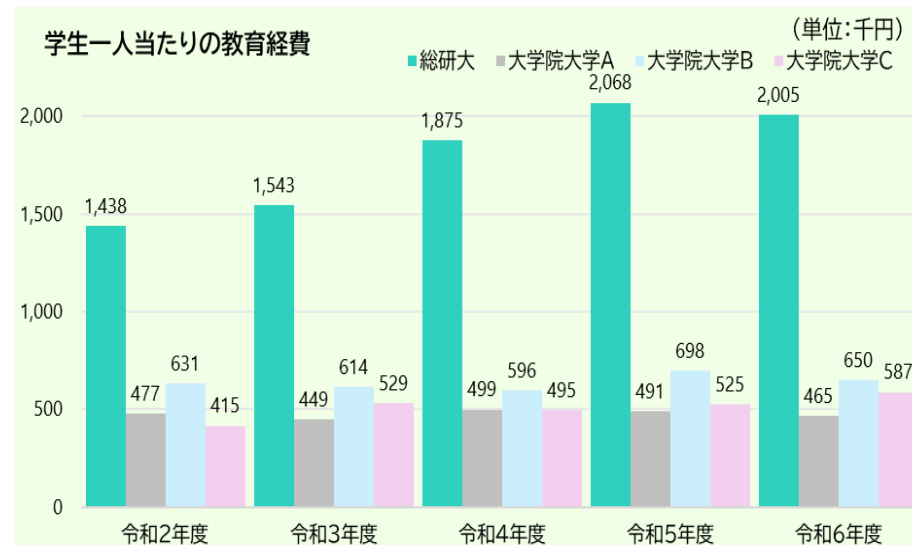
「業務費対教育経費比率」、「学生一人当たりの教育経費」については、過去5ヶ年において国立の4大学院大学中**1位**

【業務費対教育経費比率】(過去5ヶ年)



● 業務費対教育経費比率 = 教育経費 ÷ 業務費

【学生一人当たりの教育経費】(過去5ヶ年)



● 学生一人当たり教育経費 = 教育経費 ÷ 学生数^{※1}

※1「学生数」とは、学士課程、修士課程、博士課程、専門職学位課程の在籍者(令和6年5月1日現在)を指す。

※本学の教育経費には、コース運営費として各大学共同利用機関に送金し、人件費や固定資産の購入等として執行している経費が含まれるが、当該経費を除いても国立の大学院大学で1位であり、国立大学でも1位である。

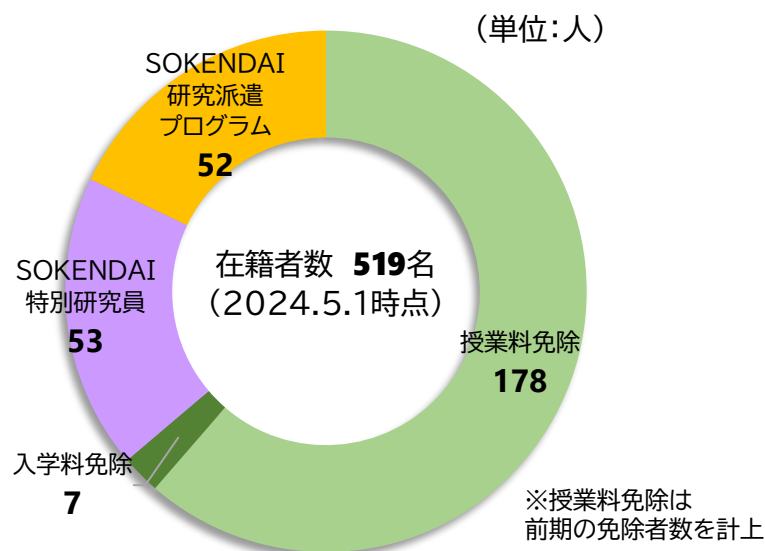
1. 本学の学生支援の状況(概要)

本学の主な学生支援(経済的支援)制度(各制度の詳細は次ページ以降)

- ① 入学料及び授業料免除
- ② SOKENDAI特別研究員制度
- ③ SOKENDAI研究派遣プログラム

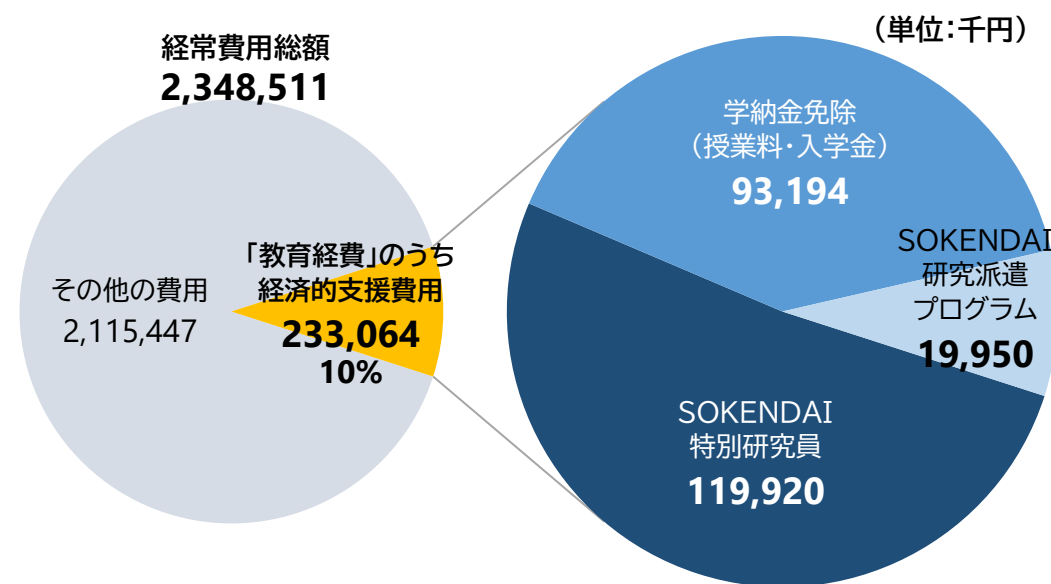
【上記経済的支援制度利用者数】(のべ数)

在籍者の約5割以上の**290**人が本学の制度を利用
(国費外国人留学生制度、JSPS特別研究員制度等を含めると約10割以上(詳細は21ページ)が該当する。)



【上記経済的支援制度にかかる費用額】

本学の費用全体の約1割を学生の経済的支援費用に充当



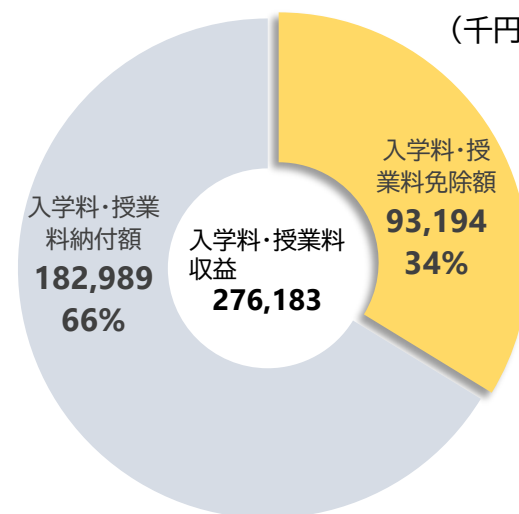
① 入学料及び授業料免除

本学では、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる者を対象に、修学上の経済的支援として、入学料・授業料の免除を実施している。授業料の免除が許可された者については、納付すべき授業料の全額又は半額が免除される。

(単位:人、千円)

免除区分	入学料				授業料			
	人数			免除額	人数			免除額
	計	前期	後期		計	前期	後期	
一般枠	7	4	3	1,974	250	125	125	63,626
全額	7	4	3	1,974	225	110	115	60,278
半額	-	-	-	-	25	15	10	3,349
SOKENDAI特別研究員(一般枠) (全額)	-	-	-	-	96	48	48	25,718
コロナ特別措置の在学期間延長 (授業料不徴収)	-	-	-	-	7	5	2	1,875
合計	7	4	3	1,974	353	178	175	91,220

令和6年度入学料・授業料免除額
(千円)



○ 入学料免除は、入学料収入予定額の**5.8%**相当の7名:**1,974千円**の免除を実施

○ 授業料免除は、**実質的な対象者の約4割(※)**について**総額91,220千円**の免除を実施

(※) 2024年5月1日時点の在学生数は、519名(うち国費留学生51名、休学者26名)であり、実質的な対象者は442名(519-(51+26))
よって、対象者の約4割を免除(前期免除者178/申請対象者442)

○ 本学独自の制度として、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う在学期間延長が認められた期間にかかる授業料不徴収の特別措置:**1,875千円**を実施。

② SOKENDAI 特別研究員制度

本制度は、基礎研究・学術研究の将来を担う人材を育成するため、下記の4つのカテゴリにおいて、特に優秀な学生をSOKENDAI特別研究員として採用し、**博士後期課程相当の3年間にわたり生活費相当額及び研究費を支給するとともに、学位取得後のキャリアパスの形成を支援する制度**である。

● 分野型(財源:科学技術イノベーション創出に向けた大学フェロースhip創設事業)

情報・AI分野及び大学共同利用機関等が保有する最先端の研究施設を利用した「大規模先端科学」分野の研究を行う学生を支援するもの。

● 挑戦型(財源:旧次世代研究者挑戦的研究プログラム)

既存の研究分野や研究科・専攻等の組織の枠にとらわれない情報・AI分野及び主体的に行う学生を支援するもの。

● 次世代AI研究者枠(財源:BOOST(博士後期課程学生支援))【2024年度から】

将来的にAI分野またはAI分野における新興・融合領域を開拓・牽引していこうという志と能力を持つ学生の研究を本格的に推進・先導するもの。

● 一般枠(財源:運営費交付金※)【2024年度から】

全ての博士課程の学生を対象。

※ 令和7年度から次世代研究者挑戦的研究プログラム(新制度)

	一人あたりの支援額		採用実績(延べ人数)			
	生活費相当額	研究費	2021	2022	2023	2024
分野型	月額19万円(年間228万円)	年間22万円	9	24	36	28
挑戦型	月額19万円(年間228万円)	年間40万円	10	16	20	12
次世代AI研究者枠(2024年度から)	月額19万円(年間228万円)	年間40万円	-	-	-	1
一般枠(2024年度から)	月額19万円(年間228万円)	年間32万円	-	-	-	12
合計			19	40	56	53

- 分野型、挑戦型、次世代AI研究者枠および一般枠の合計53名に対して**生活費相当額として総額111,330千円、研究費として総額8,590千円**を支援
- **学生全体の約10%を採用**(53/519)

③ SOKENDAI 研究派遣プログラム

本事業は、本学の教育理念である「高い専門性」「広い視野」「国際的な通用性」を持つ研究者人材の育成を推進するため、海外での短期の研究活動や、将来のキャリア構築につながる国内外での長期の共同研究等に主体的に取り組む学生に対して必要な経費を支援することを目的としている。令和6年度は、下記のとおり、学生が主体的に行う海外での短期の研究活動及び将来のキャリア形成につながる国内外での長期の研究活動を重点的に支援した。

採択された学生の研究概要は、本学Webページ(<https://www.soken.ac.jp/student-research/index.html>)参照。

○ 令和6年度は計**52名**(在学生の約**10%**(52/519))を派遣

総額として19,950千円を支援

【SOKENDAI 研究派遣プログラム実施状況】

	【区分①】 海外短期	【区分②】 海外長期	【区分③】 国内長期
活動目的	短期の共同研究・調査活動、 学会・研究集会での発表、 海外の研究室訪問等	長期の共同研究・調査活動等	
派遣期間	4週間未満	4週間以上	
助成額	1件あたり上限40万円	1件あたり上限100万円	
派遣学生数	35名	16名	1名

2. 本学以外の機関による主な経済的支援の状況

① 国費外国人留学生制度について

海外から優秀な留学生を受け入れることにより、国際交流・友好親善の促進及び諸外国の人材育成に資するとともに、我が国における大学等の国際化の進展、それを通じた教育研究力の向上、ひいては社会全体の国際化・活性化に貢献し、我が国と世界の発展に寄与することを目的とする制度である。月額14万円程度の奨学金等が支給され、本学からは2024年度において、**51名**が採用されている(2024.5.1時点)。

② 【日本学術振興会(JSPS)】特別研究員制度について

我が国の優れた若手研究者に対して、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度で、月額20万円の研究奨励金(生活費相当)および研究費支給され、本学からは2024年度において、**42名**が採用されている。

③ 【日本学生支援機構(JASSO)】特に優れた業績による返還免除制度について

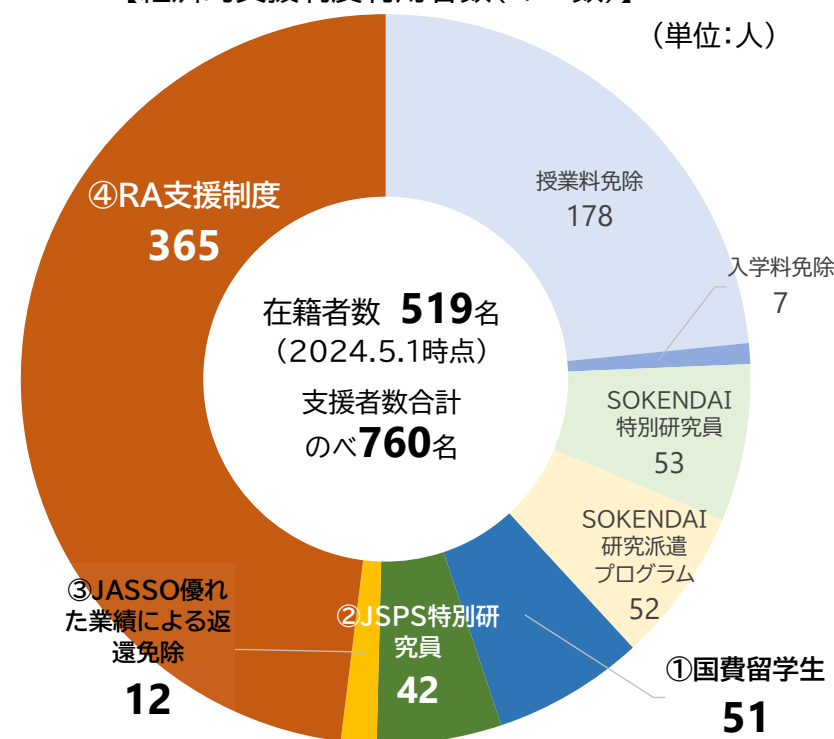
大学院で第一種奨学金の貸与を受けた学生であって、貸与期間中に特に優れた業績を挙げた者として日本学生支援機構が認定した人を対象に、その奨学金の全額または半額を返還免除する制度である。貸与終了時に大学に申請し、大学長から推薦された人を対象として、業績優秀者奨学金返還免除認定委員会の審議を経て決定される。本学からは2024年度において**12名**が返還免除となった。

④ 基盤機関等によるRA支援制度について

リサーチ・アシスタント(以下RA)とは、優れた大学院学生が、研究補助者として、研究プロジェクト等に参画する制度で、学術研究の一層の推進に資する研究支援体制の充実・強化ならびに若手研究者の養成・確保を促進するために設けられ、研究プロジェクトで推進されている高度な実験、研究論文の作成や発表などの研究活動に必要な事項に対する補助業務を行う。RAに従事した場合、本業務には、対価として給与が支給されるため、経済的支援にもなっており、RAに準ずる支援等も含め**365名**が利用している。

【経済的支援制度利用者数(のべ数)】

(単位:人)



本学の学生支援制度に上記制度を加えると、合計でのべ**760名**が経済的支援を受けており、重複支援もあるため学生全体の10割以上となる。

3. 本学学生・修了生の主な各種受賞情報

【学生】

氏名	受賞名	
先端学術院日本語言語科学コース		
久保 柁子	人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2024」	🏆 じんもんこん2024学生奨励賞受賞 「国語教科書助動詞分類データベースの構築」
先端学術院宇宙科学コース(旧物理科学研究科宇宙科学専攻)		
清水 里香	SPIE ASTRO 2024 “Astronomical Telescope + Instrumentation”	🏆 Best Paper Prize 「Evaluation of a CMOS sensor for solar flare soft X-ray imaging spectroscopy onboard the sounding rocket FOXSI-4」
小松 龍世	日本ロケット協会主催 16th International Space Conference of Pacific-basin Societies	🏆 The Best Presentation Prize in the Ph.D category 「Lunar Navigation Constellation Design: Characterizing Families of Periodic Orbits in Earth-Moon System」
先端学術院核融合科学コース(旧物理科学研究科核融合科学専攻)		
鈴木 優也	The 43rd JSST Annual International Conference on Simulation Technology & The 23rd Asia Simulation Conference	🏆 Student Poster Presentation Award 「Prediction of radiative collapse by image analysis of plasmas using Convolutional Neural Network in LHD」
先端学術院遺伝学コース(旧 生命科学研究科遺伝学専攻)		
鳩山 雄基	日本遺伝学会第96回大会	🏆 Best Papers賞 「強化オーキシンドグロン技術が明らかにする DNA 複製と細胞周期の関係性」

3. 本学学生・修了生の主な各種受賞情報

氏名	受賞名	
先端学術院遺伝学コース(旧 生命科学研究科遺伝学専攻)		
南 克彦	the 12th 3R+3C International Symposium	🏆 Excellent Poster Award 「Replication-dependent histone (Repli-Histo) labeling specifically visualizes the physical properties of euchromatin/heterochromatin in living human cells」
島添 將誠	the 12th 3R+3C International Symposium	🏆 Excellent Poster Award 「Linker histone H1 serves as liquid-like “glue” of the chromatin domain」
二橋 彩音	第47回日本分子生物学会年会	🏆 MBSJ-EMBO Poster Award優秀賞受賞 「急速タンパク質ノックダウンによって明らかになった、生後発達期バレル皮質における樹状突起精緻化の新規メカニズム」
陳 柏君	第72回日本生態学会大会	🏆 進化・数理分野優秀賞受賞 「Testing the thrifty gene hypothesis in the three-spined stickleback」
神部 飛雄	第72回日本生態学会大会	🏆 Evolution分野最優秀口頭発表賞受賞 「Adaptation to iodine-deficient environments in the stickleback」
Jaeha Kim	第18回日本ゲノム微生物学会年会	🏆 優秀ポスター賞 「トノサマバツタの群生相化と腸内細菌の関連性の解析」
Adilgazy Semeigazin	FASEB Research Conference ”Biology of Acetylation in Health and Disease”	🏆 Second-place Poster AwardおよびTravel Award 「BRD4-NUT condensates can locally crosslink surrounding hyperacetylated chromatin domains」

3. 本学学生・修了生の主な各種受賞情報

氏名	受賞名	
先端学術院遺伝学コース(旧 生命科学研究科遺伝学専攻)		
Ayjan Urazbayeva	The 18th International Zebrafish Conference	🏆 Best Presentation Award 「Shaping the Future of Early-Career Zebrafish Receachers」
丹羽 大樹	第26回日本進化学会神奈川大会	🏆 学生口頭発表賞最優秀賞
大塚 碧	”Physical Models of Living Matters- The 3rd Symposium of Physical Biology and Biological Physics”	🏆 First-Place Poster Award 「Chromatin organization and behavior in HRAS- transformed mouse fibroblasts.」
先端学術院統合進化科学コース(旧 先導科学研究科生命共生体進化学専攻)		
久保 鮎子	日本文化財科学会第41回大会	🏆 ポスター賞 「歯エナメル質断片のプロテオーム分析による甕棺被葬者の性別判定」
一色 竜一郎	第4回理論生物学夏の学校	🏆 ポスター賞 「レック型繁殖に対するメスの選り好み仮説の理論的考察」
	第72回日本生態学会	🏆 ポスター賞優秀賞(進化・数理) 「メスの選り好み仮説はレック型一夫多妻の進化を説明できるか？」
徳永 壮真	第72回日本生態学会	🏆 英語口頭発表最優秀賞受賞 「Extraordinary thermoregulation abilities of shortfin mako sharks as the key adaptive significance of regional endothermy in fishes」
南 駿	2024年度日本数理生物学会年会	🏆 ポスター賞優秀賞 「真菌-ウイルス疫学動態での新たな赤の女王ダイナミクス」

3. 本学学生・修了生の主な各種受賞情報

【修了生】

氏名	受賞名	
文化科学研究科地域文化学専攻		
菅瀬 晶子 ※ (2006年3月修了)	BRAW Amazing Bookshelf 2025- Sustainability 17 Goals for a Better Future選出	🏆 選出著書 『ウム・アーザルのキッチン』(平澤朋子絵、福音館書店)
※人類文化研究コースの菅瀬晶子准教授は、2006 年度に地域文化学専攻を修了され、その後、葉山高等研究センター上級研究員、学融合推進センター特別研究員等を経て、2011 年 4 月に国立民族学博物館に戻られました。教員として学生に寄り添いながら熱心にご指導いただいておりますが、去る 3 月 31 日にご逝去されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。		
文化科学研究科国際日本研究専攻		
片岡 真伊 (2019年9月修了)	第46回サントリー学芸賞(芸術・文学部門)	🏆 受賞作 「日本の小説の翻訳にまつわる特異な問題－文化の架橋者たちがみた「あいだ」」
物理科学研究科天文科学専攻		
津久井 崇史 (2022年3月修了)	第41回井上研究奨励賞	🏆 「ガスおよび星の動力学を用いた銀河の構造形成とその進化の解明」
物理科学研究科核融合科学専攻(2003年度までは数物科学研究科)		
長壁 正樹 (1995年3月修了)	プラズマ・核融合学会	🏆 第29回技術進歩賞 「デジタル同化手法を用いた核融合プラズマのデジタルツイン予測制御システムの開発」
磯部 光孝 (1996年3月修了)	プラズマ・核融合学会	🏆 第29回技術進歩賞 「自己崩壊αパルスを利用した核分裂検出器の新たな健全性確認方法の開発」
武村 勇輝 (2013年3月修了)	第19回日本物理学会若手奨励賞	🏆 対象研究 「磁場閉じ込め核融合プラズマにおける磁気島を伴う MHD 不安定性制御に向けた研究」

3. 本学学生・修了生の主な各種受賞情報

氏名	受賞名	
複合科学研究科極域科学専攻(2003年度までは数物科学研究科)		
Yan Ropert-Coudert (2001年3月修了)	レジオン・ドヌール勲章 シュヴァリエ	フランス極地研究所所長としての長年の功績が讃えられたもの
生命科学研究科遺伝学専攻		
津田 勝利	日本育種学会奨励賞	受賞タイトル 「イネ科植物における茎形成機構の研究」
	日本植物生理学会奨励賞	受賞タイトル 「茎の初期発生機構の研究」
生命科学研究科基礎生物学専攻		
福島 健児	令和6年度科学技術分野の文部科学大臣表彰	若手科学者賞 「食虫植物をモデルとしたマクロ進化機構の研究」

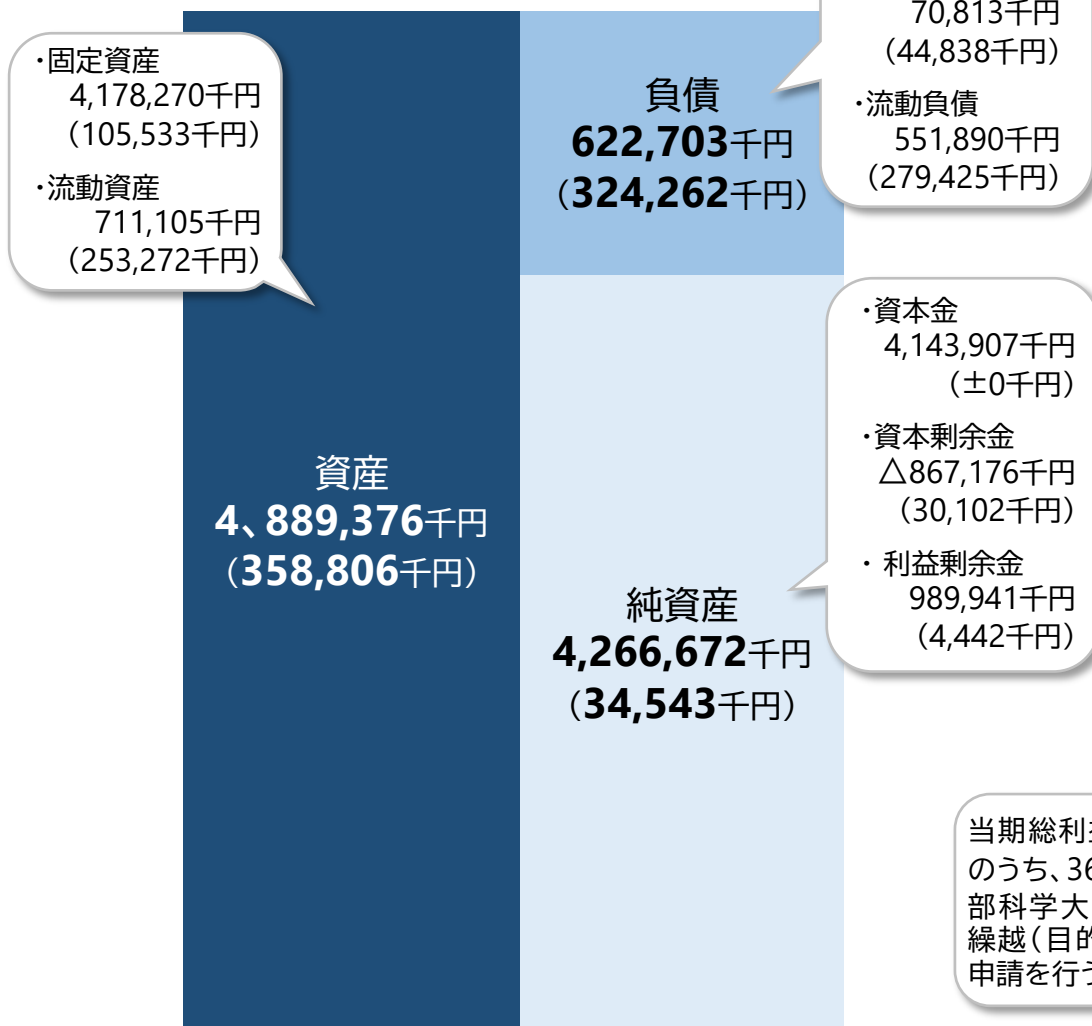
受賞情報は以下に掲載。

- 本学Webページ(<https://www.soken.ac.jp/news/>)、
- 総研大ニュースレター(<https://www.soken.ac.jp/outline/pr/publicity/newsletter/>)

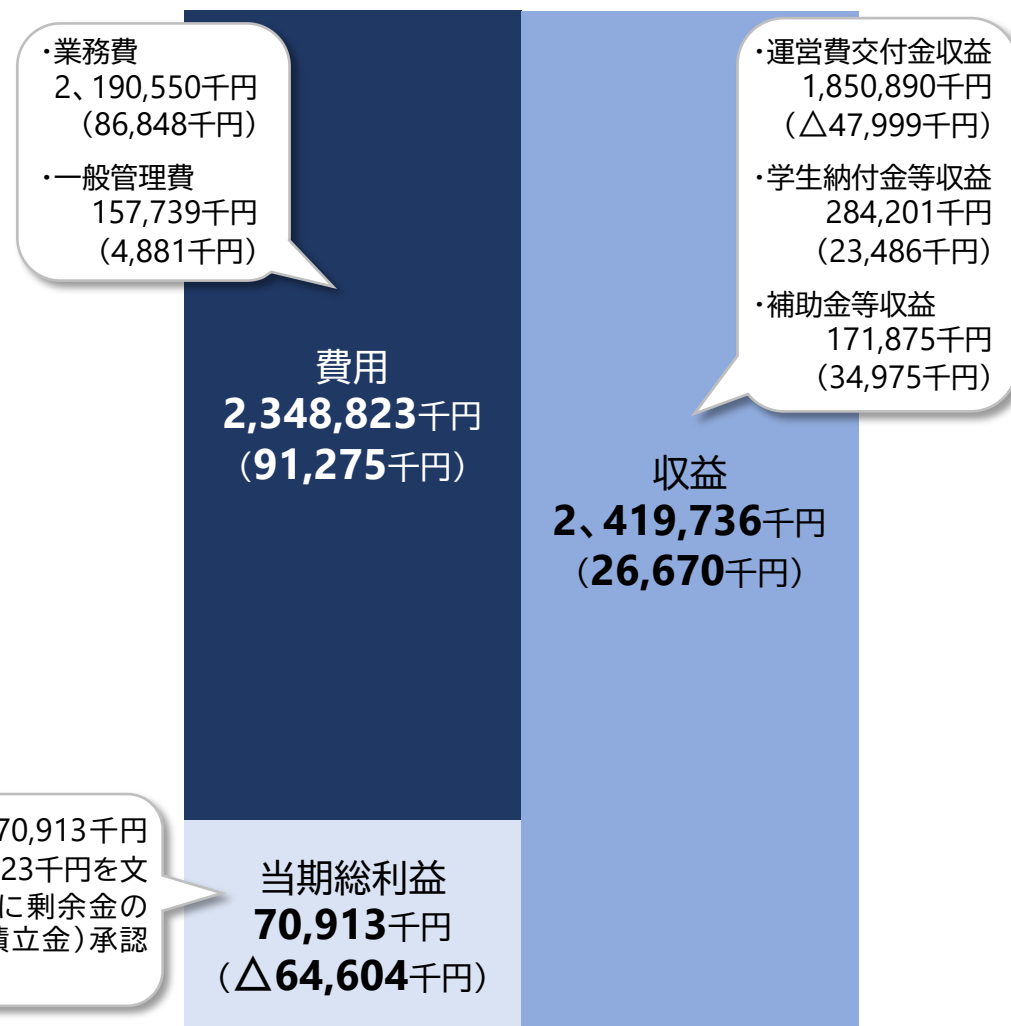
III.2024(令和6)年度財務諸表

1. 2024(令和6)年度決算の概要

貸借対照表の概略
()は対前年度増△減額



損益計算書の概略
()は対前年度増△減額



財務に関する情報は、本学Webページ
(<https://www.soken.ac.jp/outline/disclosure/financial/>)を参照。

2. 貸借対照表

本学の会計年度の期末における財政状態を明らかにするため、すべての資産、負債及び純資産を記載したものである。

(単位:千円)

区 分	令和5年度 A	令和6年度 B	対前年度 増△減額 B-A	区 分	令和5年度 A	令和6年度 B	対前年度 増△減額 B-A
資産の部				負債の部			
有形固定資産	3,887,253	3,952,875	65,622	固定負債	25,975	70,813	44,838
土地	2,130,000	2,130,000	0	長期繰延補助金等 ③	23,297	69,658	46,361
建物 ①	1,208,912	1,256,951	48,039	長期未払金	2,677	1,155	▲ 1,522
構築物	30,167	26,269	▲ 3,898	流動負債	272,465	551,890	279,425
工具器具備品 ②	224,599	248,162	23,563	運営費交付金債務	12,398	17,319	4,921
図書	291,683	291,492	▲ 191	寄附金債務	44,227	61,771	17,544
建設仮勘定	1,890	0	▲ 1,890	前受金	7,948	6,271	▲ 1,677
無形固定資産	21,121	12,267	▲ 8,854	預り金等 ④	59,443	258,290	198,847
投資その他の資産	164,361	213,127	48,766	未払金等	148,444	208,236	59,792
減価償却引当特定資産	164,341	213,107	48,766				
その他の投資その他の資産	20	20	0				
固定資産合計	4,072,737	4,178,270	105,533	負債合計	298,441	622,703	324,262
現金及び預金	425,235	687,119	261,884	純資産の部			
未収入金	17,157	9,284	▲ 7,873	資本金(政府出資金)	4,143,907	4,143,907	0
たな卸資産	61	29	▲ 32	資本剰余金 ⑤	▲ 897,278	▲ 867,176	30,102
前渡金	8,757	8,092	▲ 665	利益剰余金	985,499	989,941	4,442
前払費用	6,621	6,579	▲ 42	(うち当期総利益または総損失)	135,517	70,913	▲ 64,604
流動資産合計	457,833	711,105	253,272	純資産合計	4,232,129	4,266,672	34,543
資産合計 (総資産)	4,530,570	4,889,376	358,806	負債純資産合計	4,530,570	4,889,376	358,806

※ 金額は千円単位未満を切り捨てているので、計は必ずしも一致しない。

貸借対照表の主な増減要因

資産の部

① 建物:対前年度 48,039千円増

前中期目標期間繰越積立金や施設整備費補助金、施設費等を財源として、以下の施設の改修工事を行ったことにより、対前年度と比べて大幅に増加した。

附属図書館棟インフラ長寿命化工事

附属図書館棟について屋根・外壁・建具等の外部改修工事を実施した。

内容	取得価額
外部改修(屋根・外壁・建具等)工事	41,319千円

太陽光発電設備更新工事

下表のとおり太陽光発電設備の更新を実施した。

内容	取得価額
附属図書館棟太陽光発電設備更新	30,872千円
共通棟別館太陽光発電設備更新	30,319千円

② 工具器具備品:対前年度 23,563千円増

設備整備費補助金または目的積立金等を財源として、以下の機器を取得したことにより、対前年度と比べて大幅に増加した。

内容	取得価額
言語学と日本語学のための深層学習自然言語処理計算資源(日本語言語科学コース/国立国語研究所)	56,248千円
超低温液体窒素凍結保存自動供給システム更新等(統合進化科学コース/統合進化科学研究センター)	10,935千円

負債の部

③ 長期繰延補助金等:対前年度 46,361千円増

設備整備費補助金等を財源として、工具器具備品を取得したことにより、対前年度と比べて大幅に増加した。

④ 預り金等:対前年度 198,847千円増

次世代研究者挑戦的研究プログラム助成金の令和7年度分が令和6年度中(令和7年3月)に入金したことにより、対前年度と比べて大幅に増加した。

純資産の部

⑤ 資本剰余金:対前年度 30,102千円増

施設整備費補助金、施設費等を財源として施設の改修工事を行ったことにより、対前年度と比べて大幅に増加した。

当期総利益70,913千円のうち36,023千円について、
文部科学大臣に対し剰余金の繰越承認申請を行った。

3. 損益計算書

本学の運営状態を明らかにすることを目的に、一会計期間に属する本学のすべての費用とこれに対応するすべての収益を記載して、当期総利益(又は当期総損失)を表示したものである。

(単位:千円)

区 分	令和5年度 A	令和6年度 B	対前年度 増△減額 B-A	区 分	令和5年度 A	令和6年度 B	対前年度 増△減額 B-A
業務費	2,103,702	2,190,550	86,848	運営費交付金収益 ⑤	1,898,889	1,850,890	▲ 47,999
教育経費	1,040,571	1,040,599	28	学生納付金等収益 ⑥	260,715	284,201	23,486
研究経費 ①	81,292	66,553	▲ 14,739	受託研究等収益 ⑦	40,571	55,879	15,308
教育研究支援経費 ②	166,910	211,440	44,530	寄附金収益	12,408	13,422	1,014
受託研究費・共同研究費・受託事業費 ③	38,022	50,505	12,483	補助金等収益 ⑧	136,900	171,875	34,975
人件費 ④	776,902	821,450	44,548	施設費収益	0	4,799	4,799
一般管理費	152,858	157,739	4,881	財務収益・雑益	34,968	33,320	▲ 1,648
財務費用・雑損	642	221	▲ 421				
経常費用 (a)	2,257,203	2,348,511	91,308	経常収益 (b)	2,384,455	2,414,389	29,934
経常利益 (b)-(a)	127,252	65,878	▲ 61,374				
臨時損失	345	312	▲ 33	臨時利益	0	0	0
当期純利益(又は当期純損失)	126,906	65,565	▲ 61,341	目的積立金取崩額	8,611	5,347	▲ 3,264
当期総利益(又は当期総損失)	135,517	70,913	▲ 64,604				

※ 金額は千円単位未満を切り捨てているので、計は必ずしも一致しない。

損益計算書の主な増減要因

経常費用

① 研究経費:対前年度 **14,739千円減**

顕微鏡など複数年にわたる減価償却を行う研究設備の購入に伴い、前年度と比べて大幅に減少した。

② 教育研究支援経費:対前年度 **44,530千円増**

オープンアクセス加速化事業が採択されたことにより、前年度と比べて大幅に増加した。

③ 受託研究費・共同研究費・受託事業費: 対前年度 **12,483千円増**

受託研究費の獲得額および獲得件数の増加に加え、本年度は前年度にはなかった共同研究費の執行があったことから、前年度と比較して増加した。

④ 人件費:対前年度 **44,548千円増**

役員の退職手当(1名分)、副学長および執行役の各1名の採用、監事の常勤化による執行部体制の強化、非常勤教員の増加、人事院勧告等に伴う給与水準の上昇により、前年度と比べて増加した。

経常収益

⑤ 運営費交付金収益:対前年度 **47,999千円減**

前年度と比較して退職手当の支払額は増加したものの、前年度に運営費交付金(基盤的設備等整備分)として措置されていた教育研究機器購入に係る経費が、本年度は設備整備費補助金として措置されたことにより、全体としては減少した。

⑥ 学生納付金等収益:対前年度 **23,486千円増**

在学生数、入学者数、出願者の全てにおいて増加したことにより、前年度と比較して増加した。

⑦ 受託研究等収益:対前年度 **15,308千円増**

受託研究費の獲得額および獲得件数の増加に加え、本年度は前年度にはなかった共同研究費の執行があったことから、前年度と比較して増加した。

⑧ 補助金等収益:対前年度 **34,975千円増**

令和6年度次世代研究者挑戦的研究プログラム助成金事業の不採択による減少があったものの、オープンアクセス加速化事業経費および設備整備費補助金の採択があったこと、さらに研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業による研究員の採用者数が増加したことなどにより、前年度と比較して増加した。

4. キャッシュ・フロー計算書

本学の一会計期間におけるキャッシュ(資金)・フロー(流れ)の状況を、資金の受払という事実に着目して、一定の活動区分にて表示したものである。

区 分	(単位:千円)		
	令和5年度 A	令和6年度 B	対前年度 増△減額 B-A
業務活動によるキャッシュ・フロー	247,255	455,298	208,043
原材料、商品又はサービスの購入による支出	▲ 1,167,523	▲ 1,151,908	
人件費支出	▲ 786,285	▲ 827,771	
その他支出	▲ 138,099	▲ 136,569	
運営費交付金収入	1,883,598	1,855,812	
学生納付金等収入	176,122	190,739	
受託研究・受託事業等収入	43,586	63,023	
受託事業等の精算による返還金の支出	▲ 2,814	▲ 8,881	
補助金等収入	150,910	423,092	
補助金等の精算による返還金の支出	▲ 2,702	▲ 8,562	
寄附金収入	31,821	26,062	
その他収入	58,639	30,263	
国庫納付金の支払額	-	-	
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 207,087	▲ 182,857	24,230
定期預金の預入による支出	▲ 1,050,000	▲ 1,350,000	
定期預金の払戻による収入	1,050,000	1,350,000	
有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出	▲ 176,753	▲ 190,341	
減価償却引当特定資産の繰入による支出	▲ 84,641	▲ 48,765	
施設費による収入	54,300	55,800	
利息及び配当金の受領額	8	449	
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 10,088	▲ 10,557	▲ 469
リース債務の返済による支出	▲ 9,685	▲ 10,336	
利息の支払額	▲ 403	▲ 221	
資金増加額(又は減少額)	30,079	261,883	231,804
資金期首残高	395,156	425,235	30,079
資金期末残高	425,235	687,119	261,884

(1) 業務活動によるキャッシュ・フロー

本学における通常の業務実施に係る資金の状態を示している。
R7年度の補助金等収入(SPRING事業)がR6年度中に交付されたことにより、入金額が増加した。

(2) 投資活動によるキャッシュ・フロー

本学における資産運用または固定資産の取得など将来に向けた教育研究基盤を確立するための投資活動に係る資金の状態を示している。
令和6年度は昨年と比べ、「有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出」が増加した一方、「減価償却引当特定資産の繰入額による支出」が減少したため、全体として出金額が減少した。

(3) 財務活動によるキャッシュ・フロー

本学におけるリース債務の返済など資金調達に係る資金の状態を示している。R6年度は昨年とほぼ同程度の出金額であった。

(4) 資金期末残高

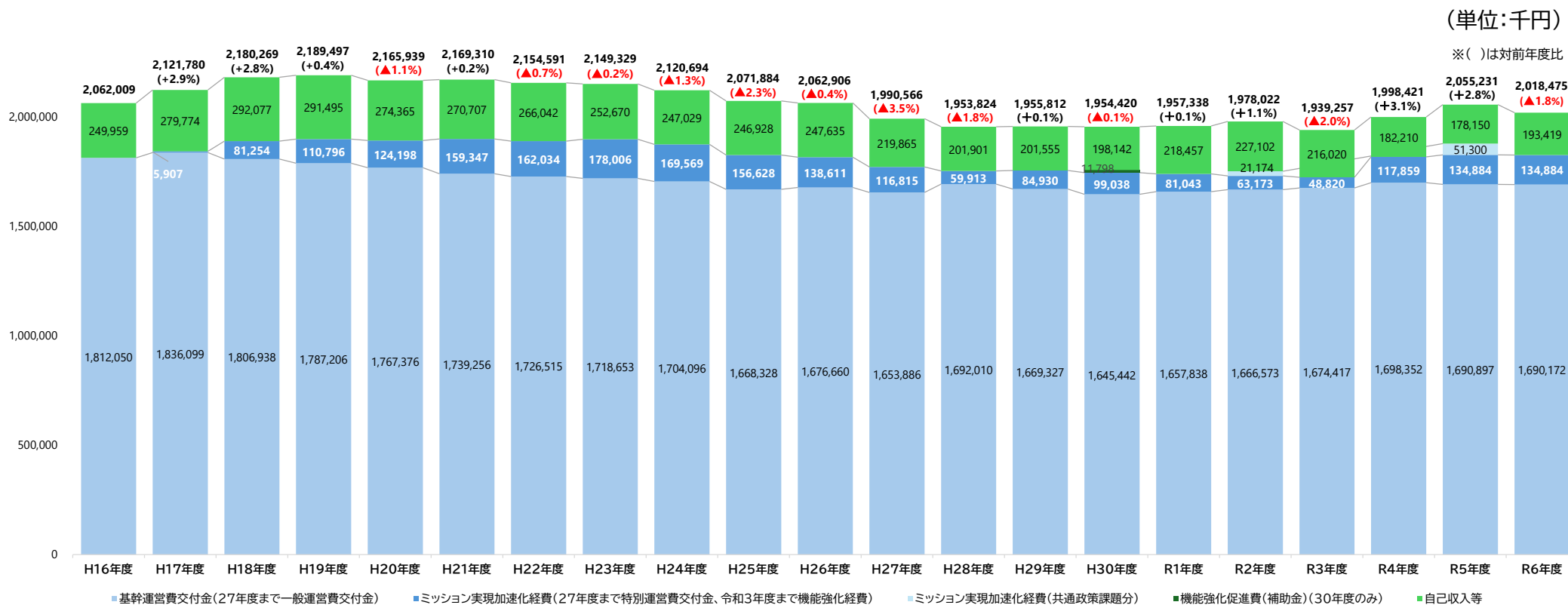
業務活動によるキャッシュ・フローの入金額が増加し、投資活動によるキャッシュ・フローの出金額が減少したため、令和6年度資金期末残高は前年度と比べて増加した。

※金額は千円単位未満を切り捨てていますので、計は必ずしも一致しません。

Ⅲ. その他の財務データ

1. 運営費交付金及び自己収入の推移

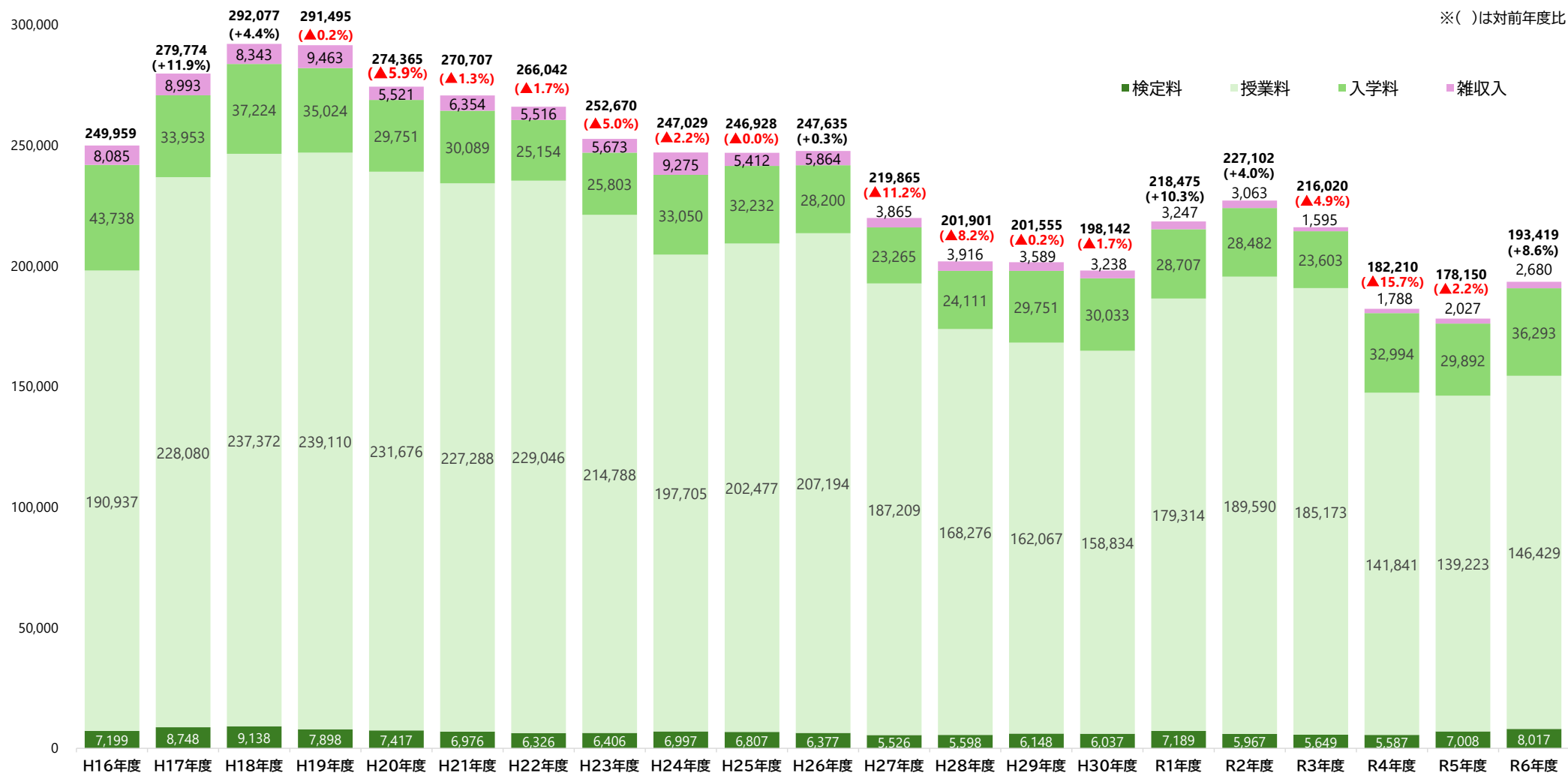
※ 特殊要因運営費交付金を除く



○ 運営費交付金及び自己収入全体について、令和6年度は**36,756千円(1.8%)**減少。

○ 特別運営費交付金(令和4年度からミッション実現加速化経費)について、令和6年度は「基盤的設備等整備分」の措置がなかったため、対前年度比**51,300千円(27.6%)**減少。

2. 自己収入の推移

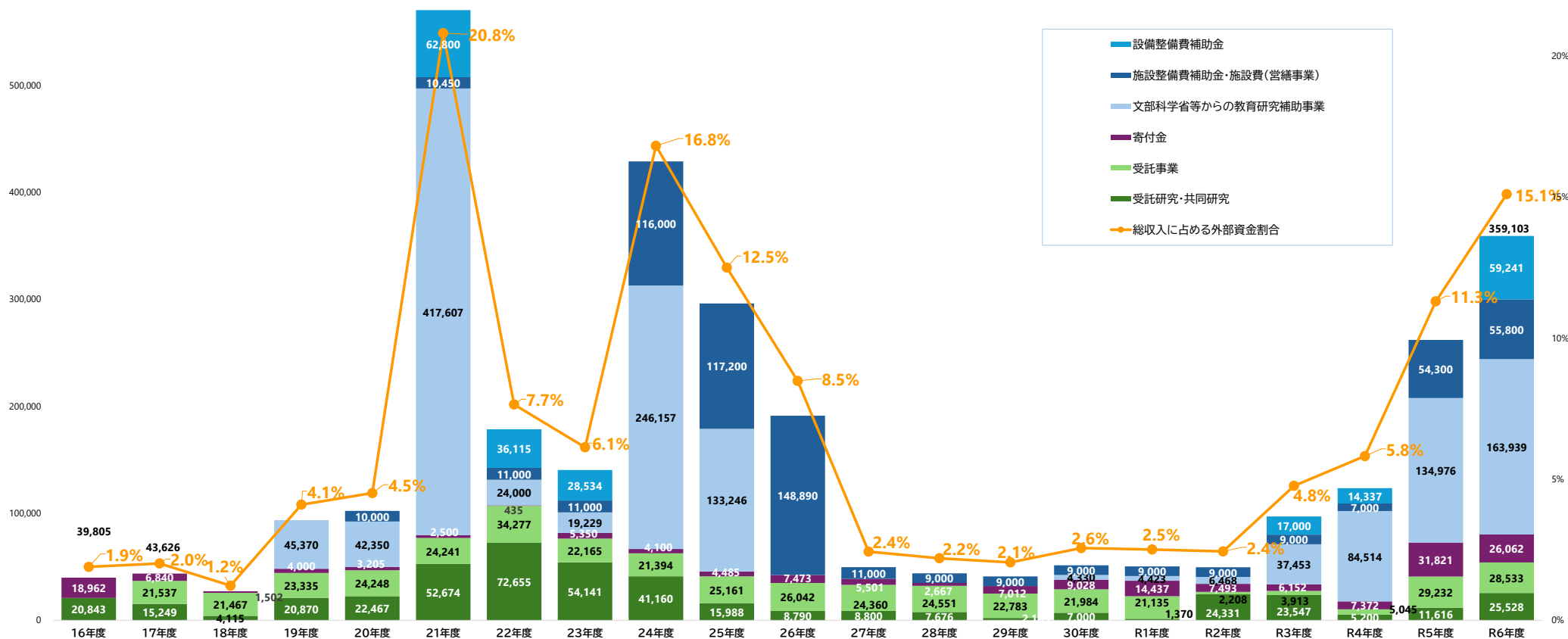


○ 自己収入全体は、授業料免除枠の増加等の要因により、ピークであった平成18年度から**33.7%減少**している。

○ 令和6年度については学生納付金収入(検定料、授業料、入学料)および雑収入がともに増加したため、対前年度比**8.6%増加**。

3. 外部資金等の推移

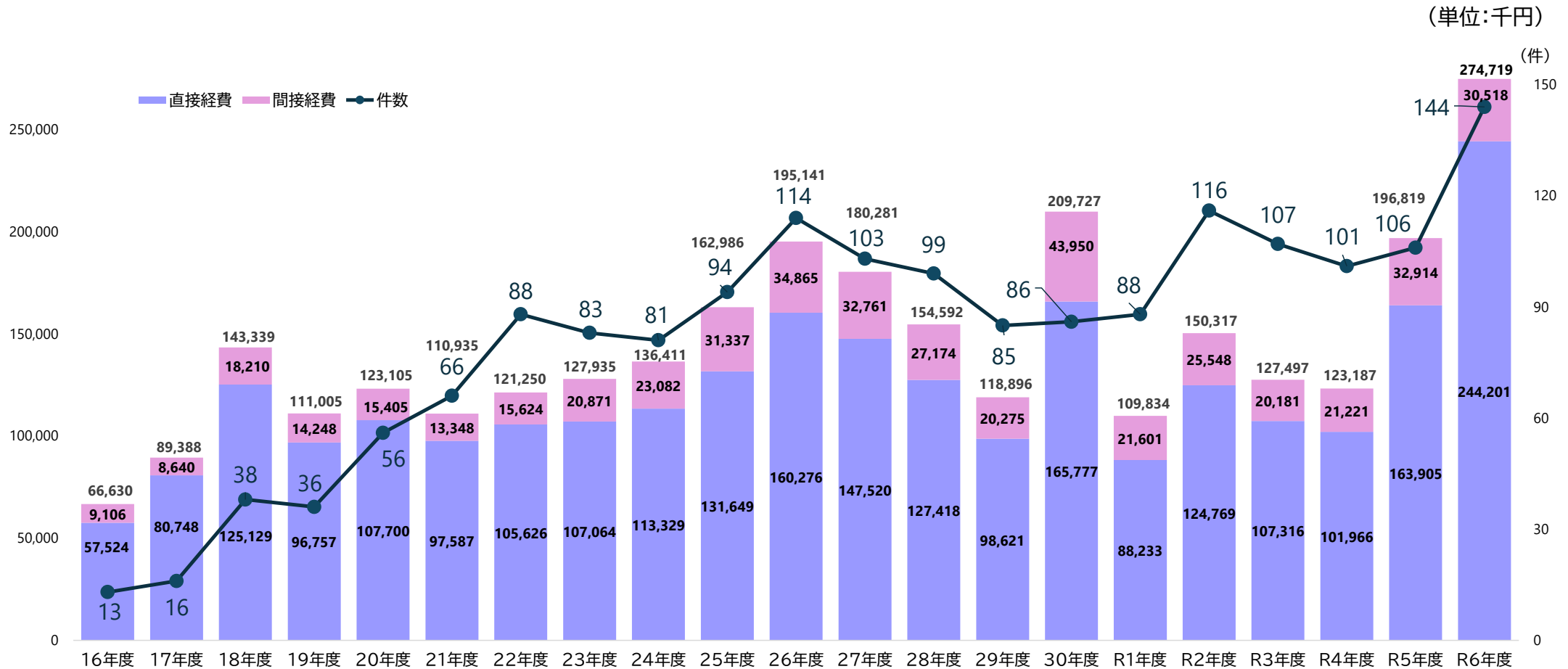
(単位:千円)



- 令和6年度は、受託研究・共同研究、文部科学省等からの教育研究補助事業および受託事業等の増加により対前年度比**37.1%増加**
- 令和6年度実績による「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の指標のうち常勤教員当たり受託・共同研究受入額の伸び率、寄附金等の経営資金獲得実績の伸び率がグループ③※**第1位**。

※グループ③:主として、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で地域というより世界・全国的な教育研究を推進する取組を中核とする国立大学(本学のほか、筑波技術大学、東京外国語大学、東京学芸大学、東京芸術大学、東京海洋大学、お茶の水女子大学、電気通信大学、奈良女子大学、九州工業大学、鹿屋体育大学、政策研究大学院大学、北陸先端科学技術大学院大学、奈良先端科学技術大学院大学の計14大学)

4. 科学研究費補助金の受入推移



- 科学研究費補助金は、独立行政法人日本学術振興会から研究者個人等に対して支給される補助金であるため、大学に交付されるものではないが、大学の研究基盤における大きな財源となっている。
- 令和6年度の直接経費は、**274,719千円**で対前年度比**39.6%**増加。なお、直接経費には、厚生労働科学研究費補助金2,000千円含む。
- 令和6年度実績による「成果を中心とする実績状況に基づく配分」の指標のうち「常勤教員当たり科研費獲得件数・獲得額」、「常勤教員当たり科研費獲得件数・獲得額の伸び率」および「常勤教員当たり科研費獲得件数・獲得額の伸び幅」については、グループ③**第1位**。